【講演記録】エキュメニカル運動の現在と将来－世界教会協議会(WCC)第10回総会－

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): Tohoku Gakuin university, Christianity, WCC: World Council of Churches, Ecumenical movement 作成者: 西原, 廉太 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/279

ヨーロッパ文化史研究　第 16 号
（2015 年 3 月 31 日）

講演記録

エキュメニカル運動の現在と将来
― 世界教会協議会（WCC）第 10 回総会 ―

西　原　廉　太

1. はじめに
2. WCC を中心とするエキュメニカル運動の歩み
3. WCC 第 10 総会の主題 ― いのちの神よ，私たちを正義と平和に導いてください ―
4. WCC 第 10 回総会の構造とプログラム
5. WCC 中央委員会議長報告・総幹事報告から
6. 「宣教」（Mission）をめぐって
7. 「一致」（Unity）をめぐって
8. 「正義」（Justice）と「平和」（Peace）をめぐって
9. 「公的諸課題」（Public Issues）をめぐって ― 採択されなかった核・原発 ―
10. WCC 第 10 総会期新体制 ― 新中央委員会・中央委員会議長 ―
11. 韓国教会内の混乱 ― 反 WCC 派の主張 ―
12. おわりに ― 今後の WCC と私たちの課題 ―

1.　はじめに

2013 年 10 月 30 日から 11 月 8 日にかけて，「世界教会協議会」（World Council of Churches : WCC）第 10 回総会が，韓国・釜山で開催された。東北アジアで初めて開催される WCC 総会となった。世界中の教会史，宣教学，礼拝学をはじめとするエキュメニカル神学研究者たちは，20 世紀以降の教会の歴史を，1910 年のエジンバラ世界宣教会議を起点としながら，1948 年にオランダ・アムステルダムで開かれた WCC 第 1 回総会から，それぞれの総会を基準点として語る。第 2 回 1954 年米国・エヴァンストン，第 3 回 1961 年インド・ニューデリー，第 4 回 1968 年スウェーデン・ウプサラ，第 5 回 1975 年ケニヤ・ナイロビ，第 6 回 1983 年カナダ・ヴァンクーヴァー，第 7 回 1991 年オーストラリア・キャンベラ，第 8 回 1998 年ジンバブエ・ハラレ，第 9 回 2006 年ブラジル・ポルトアレグレ，そして，今回，第 10 回総会が，韓国・釜山で開催されたのである。今回の総会は，韓国現地参加者も含めて，約 4,500 名が参加して開会した。正式な参加者だけでも，2,663 名を数えた。

私は，1998 年ジンバブエ・ハラレ第 8 回総会，2006 年ブラジル・ポルトアレグレ第 9

回に引き続き，日本聖公会からの代議員として出席の機会を与えられた。ここに，今回のWCC 第 10 回総会の概略的な報告を試みたい。その内容すべてを報告することは不可能であるので，詳細についてはWCC 公式ウェブサイトを参照されたい[1]。

2.　WCC を中心とするエキュメニカル運動の歩み

通常, 現代エキュメニカル運動の始まりは, 1910 年の「エジンバラ世界宣教会議」（World Missionary Conference）とされる。エジンバラ会議は,「継続委員会」を設置し，継続委員会はさらに再編されて，1921 年には常設的な「世界宣教会議」となった。議長はエジンバラ会議に引き続き，ジョン･モット（John R. Mott）が務めたが，会議の構成団体は,「北米海外宣教会議」,「ドイツ福音主義宣教委員会」,「連合王国及びアイルランド宣教協議会」等を中心としたローカル・エキュメニカル運動体が中心となっていた。この世界宣教会議は，中国，インド，中近東，一部アフリカ地域，そして日本における教会協議会の組織化を促すことになった。各伝道地に現地のキリスト者が主体となった教会協議会が結成されるに従って，宣教活動の主導権も欧米の宣教師から，現地の指導者へと移っていく。1928 年のエルサレム世界宣教会議の際には，若い教会からの出席者は，全参加者の 4 分の 1 であったが，僅か十年後の，1938 年マドラス世界宣教会議は過半数を超えることになる。

エジンバラ会議以降の 20 世紀エキュメニカル運動には，3 つの主要な流れがあると言える。すなわち,「国際宣教協議会」（International Missionary Council : IMC）[2],「生活と実践運動」（Life and Work Movement）,「信仰と職制運動」（Faith and Order Movement）[3] である。この 3 つの流れはその後，1948 年にアムステルダムで第 1 回総会を開催した,「世界教会協議会」（WCC）として結び合わされる[4]。WCC は, 20 世紀エキュメニカル運動の最も重要な運動となる[5]。

20 世紀になぜ，エキュメニカル運動がこれほどまでに急速に成長したのであろうか。

---

(1)　http://wcc2013.info/en（2014 年 11 月 21 日現在）

(2)　現在は，WCC 世界宣教伝道委員会（Commission on World Mission and Evangelism : CWME）として継承されている。IMC が WCC に正式に合流するのは 1961 年ニューデリー総会においてである。

(3)　現在は，WCC 信仰職制委員会（Faith and Order Commission）として継承されている。

(4)　第 4 の流れとして, 世界キリスト教教育協議会（World Council of Christian Education : WCCE）が, 1968 年にウプサラで開催された WCC 第 4 回総会で，WCC に合流したことも重要な点である。

(5)　第 1 回総会の記録を，WCC 本部があるジュネーブのエキュメニカル・センター資料室で調べたところ，第 1 回総会から，日本聖公会と日本基督教団が正式代議員を送っている記録があり，日本聖公会からの代議員は八代斌介主教，教団からは日本基督教協議会初代議長の小崎道雄師が派遣されている。その他，陪席者として記録されているのが，日本福音ルーテル教会議長の岸千年師と日本の新約聖書学の草分け的存在である前田護郎師である。敗戦後間もなくで，海外渡航も制限されていた時代に，こうしたエキュメニカル運動への熱情があったことを私たちも記憶に留めたい。

それにはいくつかの理由が考えられるが，主要にはヨーロッパの政治的状況と聖書神学の復興という 2 つの要因を指摘することができる。1930 年代のヨーロッパにおける政治的状況が，エキュメニカル神学に大きな影響を与えたことは間違いない。ヒットラー独裁政権下のドイツで，教会は暴力と迫害にさらされた。ドイツ告白教会は，政府の策動に抵抗し，国家政策に従属することを拒否した。これがいわゆるドイツ教会闘争であるが，この闘争の中で，教会の新たな意識が生まれ，教会こそが，全体主義に立ち向かうことのできる場であることが再確認された。このドイツ教会の経験は他の諸教会にも影響を与えることになる。聖書神学の復興は，カール・バルト（Karl Barth）に代表されるが，聖書神学の探求の中で，教会自身が，議論の主題となったのである。聖書の歴史の核心は，人々の共同体が,「神の民」となっていくという召命の物語にある。この「神の民」という概念は，エキュメニカル運動の神学的キーワードとなった。

3.　WCC 第 10 総会の主題　― いのちの神よ，私たちを正義と平和に導いてください ―

WCC 第 10 回総会のテーマは，「いのちの神よ，私たちを正義と平和に導いてください」（God of life, lead us to justice and peace）であった。アジアのコンテキスト（文脈）の多様性と，あらゆる＜いのち＞への配慮と正義を求めることの緊急性が意識されたものである。さらに，3 つの副題が以下のように付された。①信仰の中で共に生きること：一致と宣教，②希望の中で共に生きること：世界の正義，平和，和解のために，③愛の中で共に生きること：共通の未来のために。

この主題は，1990 年に韓国，ソウルで開催された WCC の，「正義･平和･被造物の保全（Justice, Peace and Integrity of Creation：JPIC）世界会議」とも連動している。2006 年に，ブラジル，ポルト･アレグレで開かれた，WCC 第 9 回総会に招かれた，ノーベル平和賞受賞者でもある南部アフリカ聖公会の，デズモンド・ツツ（Desmond Mpilo Tutu）元大主教は，WCC の人種差別撤廃に向け

た働きがなければ決してアパルトヘイトが無くなることはなかった，と大きく評価したが，確かに，長年にわたり，WCC は，世界の正義と平和，人間の尊厳の問題に深くコミットしてきた。

一方で，1980 年代後半に入り，環境破壊，生態系，気候温暖化などの，エコロジカルな諸課題もまた世界の教会が共通して取り組むべきものとしての認識が高まり，これまでの＜正義と平和＞に加えて，あらゆる＜いのち＞を，尊厳をもって守り，慈しむことが，いわゆる「トップ・アジェンダ」とされていく。WCC が主催した JPIC 会議は，そのことを明確に確認する意味も持っていた。

WCC 第 10 回総会のテーマ，「いのちの神よ，私たちを正義と平和に導いてください」をイメージしたロゴマークも作られた。イザヤ書第 42 章 1～4 節を基にして，神が選んだ者たちが，この地上のすべてに正義を据えるその時までは，決して傷つき果てることがないように願うものである。硬い岩や鎖の絡まる大地から一本の「芽」が萌え出で，大きな「木」となること。その木から飛び立つ三羽の「鳥」が，この世界の隅々にまで，神の愛と正義と＜いのち＞の種を運んでいく，というイメージである。

4.　WCC 第 10 回総会の構造とプログラム

WCC 第 10 回総会は，中央委員会で立てられた「総会準備委員会」（Assembly Planning Committee : APC）と韓国の現地ホスト委員会（Korean Host Committee : KHC）が緊密に協議しながら，入念に準備されてきた。

WCC は，全 345 加盟教会に「総会代議員」（delegate : voice and decision-making）のノミネートを要請したが，代議員数は，教会の規模によって異なり，180 教会は 1 名の代議員，それ以外は 2 名以上となっている（日本では，日本基督教団が 2 名，日本聖公会，日本ハリストス正教会，在日大韓基督教会が各 1 名）。代議員を 2 名以上派遣可能な教会には，ジェンダーバランスと，青年をなるべく含めるよう求められている。全代議員の 25% は正教会メンバーというルールは，今総会においても引き続き適用された。

各加盟教会からの正式代議員以外に，追加可能性のある代議員候補を各加盟教会から提案してもらい，ことに，女性，青年，先住民，障がい者，信徒，等々の背景を考慮して，最終的には中央委員会で決定され，今総会での正代議員数は 701 名，中央委員会で決定する追加代議員は 124 名となり，合計 825 名となり，ポルト・アレグレ総会（760 名）よりも 7% 増加した。

WCC と繋がるエキュメニカル・パートナーにも招待状が送付され，「派遣代表者」（delegated representatives : voice, no decision-making）の資格で総会への参加がなされた。このエキュメニカル・パートナーとは，① キリスト教世界共同体（Christian World Communions : CWCs，例えば，アングリカン・コミュニオン，ルーテル世界連盟等），② 地域エキュメニカル団体（Regional Ecumenical Organizations : REOs，例えば，アジア・キリスト教協議会（CCA）等），③ 各国のキリスト教協議会，教会協議会（NCCs），日本キリスト教協議会（NCCJ）等，④ 国際エキュメニカル団体（International Ecumenical Organizations : IEOs，例えば，世界 YMCA，世界 YWCA，ACT アライアンス等）などのカテゴリーがある。

また，その他，「オブザーバー」（delegated observers : voice, no decision-making）として特別に招待状が出されたのは，ローマ・カトリック教会，韓国の諸教会，ペンテコステ諸教会，WCC 加盟に関心を有している諸教会，等々である。韓国の諸教会には，韓国 NCC（NCCK）に加盟していない教会も含まれていたが，後述するように，事実上の韓国プロテスタント最大教派である大韓イエス教長老会（合同派）は，WCC 総会開催そのものに徹底して反対し，激しい抗議活動を展開するに至った。北朝鮮の朝鮮基督教徒連盟（KCF）に対しても強力な招請活動が行われ，総会直前の 9 月下旬にトヴェイト WCC 総幹事らが極秘裏に平壌を訪問し，直接，WCC 釜山総会への参加を促したが，最終的には参加を得ることができなかった。その他，総会に特別な貢献などが期待される「アドヴァイザー」，他の宗教代表や全体会議（プレナリー）などでの発言者等は「ゲスト」枠として招かれた。

トヴェイト総幹事は，今回の総会が，WCC の加盟教会のための総会であるだけではなく，世界のエキュメニカル運動にも大きな意義とインパクトを与えるものになろうと 2012 年の中央委員会で語った。ひとつに結び合わされることが神の賜物であり，今日の世界における正義と平和の実現のために，共に働くことの意味を互いに確認する機会となることをトヴェイト総幹事は期待した。実際，今総会では，WCC 加盟教会以外からも，エキュメニカル関係諸団体や WCC に加盟していない諸教会，さらには他の諸宗教からも代表が公式に招かれ，エキュメニカル運動の将来についてそれぞれの見解が述べられた。ことに，各プレナリーの冒頭で，以下の主要代表者が来賓として挨拶を行った。教皇フランシスコのメッセージを代読したクルト・コッホ（Kurt Koch）枢機卿（ローマ・カトリック教会・教皇庁キリスト教一致推進評議会議長），ジャスティン・ウェルビー（Justin Welby）カンタベリー大主教（聖公会），ムニブ・ユーナン（Munib Younan）ルーテル世界連盟（LWF）

議長，マイケル・オー（Michael Oh）ローザンヌ運動代表執行委員[6]，デーヴィッド・サンドメル（David Sandmel）師（ラビ, 宗教間協議ユダヤ教国際委員会代表), 渡辺恭位師（立正佼成会理事長)。

釜山総会への日本からの「総会代議員」（delegate）は，日本基督教団から伊藤瑞男牧師，在日大韓基督教会から許伯基牧師，日本聖公会から西原廉太であった。WCC 正式加盟教会である，日本ハリストス正教会は，長年，WCC に積極的コミットをして来なかったが，WCC 幹事で，正教会メンバーであるダニエル・ブダ（Daniel Buda）氏が，昨年，日本を訪問し，ダニイル主代郁夫府主教，デミトリイ田中仁一司祭ら，正教会関係者と面談の機会を持った。その結果，日本ハリストス正教会は，今 WCC 総会に田中司祭はじめ 2 名の正式代表を代議員として派遣した。これは今後の日本におけるエキュメニカル運動にとっても大きな朗報である。

日本キリスト教協議会（NCCJ）からは,「派遣代表者」（delegate representatives）として参加した網中彰子総幹事の他，憲法 9 条を主題としたワークショップの運営のために，小橋孝一議長はじめスタッフも来韓した。ブースを出展した東北ヘルプなども積極的な活動を展開した。WCC 総会と同時並行で開催された若手神学者のためのプログラムである GETI（Global Ecumenical Theological Institute）には，スタッフとして同志社大学の木谷佳楠先生, 参加者として関西学院大学の村瀬義史先生が参加した。また, WCC 総会では必ず，青年たちによるスチュワードを募集する。青年たちにとっても世界の教会，世界のエキュメニカル運動を肌身で経験するまたとない機会でもあり，世界のエキュメニカル青年たちとの出会いの場ともなるのであるが，今回は，日本から，同志社大学院生の相山賢太氏，聖公会神学院の姜炯俊神学生がスチュワードを経験できたことは喜ばしいことであった。

これまでの WCC 総会とは異なり，日本から最近接の外国である釜山で開催されたこともあってか，その他の一般参加者も含めて，WCC 総会史上，最多数の日本からの参加者が与えられたことは特筆すべきことである。

今回の WCC 総会は，東北アジアで初めて開催されるもので，総会のプログラム内容にもアジアの諸課題や文化，思想が大きく取り入れられた。人間以外の＜いのち＞をも深く慈しんできた仏教などの東洋の宗教性にも深い関心が払われた。また，とりわけ開催地である朝鮮半島の平和と統一の問題が，世界のエキュメニカル運動にとっても重要な課題であることが確認された。総会全体では，① コイノニア（キリストにおけるひとつの信仰と絆)，② マルトゥリア（世界における証し)，③ ディアコニア（正義と平和，＜いのち＞

[6] マイケル・オー代表執行委員の活動拠点は，日本の名古屋である。

に仕える），④ エキュメニカル・フォーメーション（リーダーシップ形成），⑤ 宗教間の協働，という 5 つの領域のもとに各プログラムが構成された。

総会プログラムは，毎朝，祈りと聖書の分かち合いによって始められた。共に祈り，共にみ言に聴くことは WCC 総会にとってきわめて本質的で不可欠なものであることが強調された。礼拝の中には，例えば，テゼ共同体のブラザー・アロイス（Brother Alois）がアニメートする，テゼの祈りなども持たれ，また，プロテスタント，聖公会，正教会，カトリックさらには純福音教会[7] に至るまで，実に多様な要素によって構成される諸礼拝が行われ，ある意味，参加者がその肌でエキュメニズムを感じる時間ともなった。8 つの「プレナリー」（Plenary：全体会），21 の「エキュメニカル対話」（Ecumenical Conversations）の時間が設定され，世界の教会が直面する諸課題について具体的に議論し，方向性を確認していく作業が重ねられた。

「プレナリー」のテーマは，以下の通りであった。①「オープニング・プレナリー」－いのち，正義，平和への招き：イントロダクション。朝鮮半島のコンテキストの紹介。②「主題についてのプレナリー」－いのちの神よ，私たちを正義と平和に導いてください：総会主題についての共有。主題講演以外に，具体的な証言等も含まれた。③ 「アジアについてのプレナリー」：アジアにおいて今総会の主題はどのように理解されるかに焦点が当てられた。ことにアジアのいのち，正義，平和を求める苦闘に聴き，宗教多元的状況について学んだ。④「宣教（Mission）についてのプレナリー」：福音宣教の領域におけるこの間の進展を分かち合った。ことに宣教における聖霊論的側面に焦点を当てたリフレクションが準備され，正義と平和における＜いのち＞の十全性に向けた，宣教の包括的視座が提供された。宗教多元的なコンテキストにおけるキリスト者の証しにも耳を傾けた。⑤「一致（Unity）についてのプレナリー」― キリストにおける一致，賜物と招き：このプレナリーでは，キリスト者の一致とは，賜物であり招きであることを再確認した。WCC 信仰職制委員会が中心となって準備したが，ワーキング・グループには，加盟教会代表以外に，ローマ・カトリック教会，ペンテコステ諸教会，福音派諸教会代表も含まれた。⑥「正義（Justice）についてのプレナリー」― いのちの神よ，現代世界において私たちが正義をなせるよう導いてください。⑦「平和（Peace）についてのプレナリー」― いのちの神よ，現代世界において私たちが平和を打ち立てるよう導いてください。この二つのプレナリーは相互に連関するものであった。経済的，エコロジカル的，ジェンダー，人種的不正義等々の諸課題が扱われた。これらのプレナリーのワーキング・グループは，

[7] ソウル・汝矣島に本拠を持つ純福音教会は，韓国教会協議会（KNCC）の正式会員である。

ACT アライアンス，専門家チーム，IEPC 関係者等も含めて構成された。

21 の「エキュメニカル対話」が設定されたが，各「エキュメニカル対話」は，それぞれ特定のテーマで行われ, 90 分のセッションが 4 回用意された。各「エキュメニカル対話」は，80~120 名の参加者で構成された。各参加者は，事前に，一つの「エキュメニカル対話」を選択し，4 回すべてのセッションに参加することが求められた。

各テーマはすべて総会主題を根拠とし，信仰，いのち，一致，宣教，正義，平和，エキュメニカル・フォーメーション，宗教間対話，等々を中心に設定された。「エキュメニカル対話」は以下の 4 段階で構成された。① 専門家，リソース・パーソンからのテーマについてのインプットと分かち合い，② パネリスト，参加者による多様な視座からの議論，③ 参加者による協議，議論，④ WCC 及びエキュメニカル運動全体に対する提言作成。各「エキュメニカル対話」は委員会報告のように総会に直接報告されないが，釜山総会後に, 加盟教会, エキュメニカル･パートナー, WCC 中央委員会に対して送られることになっている。

「エキュメニカル対話」は，講義形式ではなく，あくまでも対話形式が重要視された。そのために，ことに言語をめぐる障壁をできるだけ少なくすることが求められた。重要な文書，資料等は事前に提供された。各「エキュメニカル対話」の報告は共通のテンプレートを使用した。各「エキュメニカル対話」は，コイノニア，マルトゥリア，ディアコニア，エキュメニカル・フォーメーション，宗教間対話の内，少なくとも一つ以上と明確な連関性を持ち続けなければならないとされ，4，5 名からなる「リーダーシップ・チーム」が事前に構成され，準備にあたった。

私は,「エキュメニカル対話」（Ecumenical Conversation）の一つ, WCC 信仰職制文書,『教会－共通のヴィジョンを目指して』（*The Church : Towards a Common Vision* : TCTCV）[8] を取り扱った「エキュメニカル対話 02」の議長（Moderator）を任じられた。いわゆる『リマ文書』（BEM）を後継する重要な位置づけが与えられている文書である。議長は WCC 幹事が用意したシナリオ通りに進めれば良いのかと思っていたところ，5 月位から WCC から矢のようなメールが送られ始め，議長自身が，4 日間のエキュメニカル対話プログラムの構成，タイムライン，発題者等々のすべてをコーディネートしなければならない，ということが後に判明した。WCC スタッフと何度も Skype 会議などを繰り返し，リーダーシップ・チームを構成し，内容を詰めながら，この総会に臨んだ。リーダーシップ・チー

[8] 本文は以下を参照のこと。
http://www.oikoumene.org/en/resources/documents/wcc-commissions/faith-and-order-commission/i-unity-the-church-and-its-mission/the-church-towards-a-common-vision（2014 年 11 月 21 日現在）

ムは，私以外に，リソース・パーソンとして，長年 WCC の信仰職制委員会を担ってこられたカトリック神学者のウィリアム・ヘン（William Henn）神父，報告者（Rapporteur）として，「グローバル・クリスチャン・フォーラム」（Global Christian Forum : GCF）総幹事のラリー・ミラー（Larry Miller）先生，ギリシャ正教会主教のディアヴレイアのガブリエル（Gabriel of Diavleia）主教，そして WCC 担当幹事としてオダイル・マテウス（Odair Pedros Mateus）氏に委嘱した。結果，有能なリーダーシップ・チームの助力と多数の参加者の豊かな貢献によって，内容豊かな時間を過ごすことができた。WCC 全加盟教会に向けた文書も無事完成し，今後，報告されることになっている。

これら以外に，今回の WCC 総会のユニークなプログラムとして，「マダン」という名称の，ワークショップやブース（展示）が設けられた。「マダン」とは韓国語で「広場」という意味である。「マダン」は，人々が出会い，互いに励まされる場であるが，総会における「マダン」では，さまざまなワークショップ，展示，イヴェント，パフォーマンス，等々のブースが作られ，多様で豊かな交わりが実現した。

マダンの一つに，韓国のキリスト教ネットワークが主催した，原発，核兵器などすべての核の廃絶を訴えるワークショップがあった。福島の木田恵嗣牧師の発題もあり，多数の日本人参加者も含めて会場は熱気に包まれた。日本山妙法寺の武田隆雄上人も参加された。また，東北ヘルプは，川上直哉牧師が中心となり，ニュージーランド関係者と共同で，渡辺総一画伯の絵を用いた「福島」を世界に伝えることを目的としたブースを出展した。

また，教派別会議（Confessional Meeting），地域別会議（Regional Meeting）の機会も持たれた。アジア地域会議では，主要に，アジア地域からの代表議長（President）をどのように考えるかについて時間が割かれることとなった。WCC は，総会毎に，8 つの地域（アフリカ，アジア，ヨーロッパ，ラテン・アメリカ及びカリブ海，北米，太平洋，東方正教会，オリエンタル正教会）からの地域代表議長を選出する。ほとんどの地域は，それぞれの地域別会議で，候補者を一人に絞ってノミネーション委員会に推薦したが，アジア地域別会議では結局コンセンサスが得られず，フィリピン NCC や CCA でも活躍したカルメンシータ・カラグダ（Carmencita Karagdag）氏，WCC や米国 NCC の幹事でもあったヴィクター・シュー（Victor Hsu）氏，梨花女子大学総長なども歴任された張裳氏ら，韓国，フィリピン，台湾，インド，オーストラリアから 5 名の候補名がノミネーション委員会に提出された。

最終的には，張裳氏が，アジア地域からの代表議長に選出された。当初，韓国からは WCC 中央委員，韓国基督教長老会総務を努めた，WCC 総会準備大会長の朴宗和（パクチョ

ンファ）氏が立候補されていたが，急遽，張裳氏に変更された。張裳氏は，1939 年生まれで，何と言っても記憶にあるのは，金大中大統領が韓国憲政史上初の女性首相として張裳氏を任命したにもかかわらず，子息の兵役問題などの絡みで，国会聴聞会を経た投票で反対票が上回り，任命に至らなかった，という一件である。民主党共同代表も務め，大統領候補にも名乗りをあげた。韓国基督教長老会の牧師でもあり，とりわけ女性の権利推進に尽力し，韓国 YWCA の指導者としても活躍した。新約聖書学，女性神学の多くの著作を出されている。現在も，韓国政府の朝鮮半島統一委員会の高位助言者としても働かれており，WCC 地域議長として申し分ない方であるが，これまで WCC とは直接関係しておらず，エキュメニカル運動への参与もあまりないことへの不満が一部には残った。

総会で選出された各 8 地域からの地域代表議長は以下の通りである。① アフリカ：メリー・アン・ヒュッフェル（Mary Anne Plaatjies van Huffel）牧師（南アフリカ合同改革派教会），② アジア：張裳師（韓国基督教長老会），③ ヨーロッパ：アンデレス・ワイリッド（Anders Wejryd）大主教（スウェーデン・ルーテル教会），④ ラテン・アメリカ及びカリブ海：グロリア・アルヴァドロ（Gloria Nohemy Ulloa Alvarado）牧師（コロンビア長老教会），⑤ 北米：マーク・マクドナルド（Mark MacDonald）主教（カナダ聖公会），⑥ 太平洋：メレアナ・プロカ（Mele'ana Puloka）牧師（トンガ自由ウェスレアン教会），⑦ 東方正教会：ヨハネス 10 世（John X）（ギリシャ正教会アンテオキア及び全東方総主教府），⑧ オリエンタル正教会：カレキン 2 世（Karekin II）（全アルメニア至高総主教府及びカトリコス）。

北米代表議長のマーク･マクドナルド主教は，カナダ聖公会のアラスカ教区主教であり，WCC 史上初の先住民出身議長となった。8 人の議長の内，半数が女性とバランスも良いものとなった。

これまでの総会と同様に，釜山総会においても，総会代議員から主要 6 委員会が構成された。すなわち，① メッセージ（Message）15 名，② 公的諸課題（Public issues）30 名，③ プログラム（Programme）30 名，④ 政策関連（Policy reference）30 名，⑤ 財政（Finance）15 名，⑥ ノミネーション（Nominations）25 名，である。

また，2013 年 10 月 28 日，29 日に，総会会場と同じ釜山 BEXCO で以下の 3 つのプレ総会イヴェントが実施された。①「女性たちのプレ総会 ― 教会と社会における女性と男性の交わり 60 周年記念 ―」（Women's Pre-Assembly -60th anniversary of the community of women and men in church and society）。②「プレ総会青年イヴェント」（Pre-Assembly Youth Event）。WCC 青年プログラム，ECHOS 委員会，韓国青年グループが協働主催。③「プレ総会

EDAN 会議」（Pre-Assembly EDAN）。「エキュメニカル障がい者問題ネットワーク」（Ecumenical Disabilities Advocate's Network : EDAN）は，総会代議員および参加者の中から，約 85 名（世界各地から 60 名，アジアから 15 名，韓国から 10 名）。④「先住民プレ総会会議」（Pre-Assembly Indigenous People）。「エキュメニカル先住民ネットワーク」（Ecumenical Indigenous Peoples Network）主催。

総会における会議運営については，釜山総会では，いわゆる「コンセンサス方式」を継続して，基本的にすべての会議において採用した。これは，単純な多数決方式にはよらず，オレンジとブルーのカードを使用する全会一致方式である[(9)]。同時通訳及び翻訳は，英語，フランス語，ドイツ語，スペイン語，韓国語で行われた。また，総会の一部は，オンラインで中継され，世界のどこにおいても，生中継で，総会の礼拝，プレナリー等を視聴することが可能であった。10 分間のオンライン・ヴィデオが毎日提供され，会期中は，8 頁建ての『マダン』（*madang*）と題された新聞がオンラインおよび印刷で発行された。

総会前半部を終えた週末は，それぞれソウル，釜山，光州，済州島などへ，韓国ホスト委員会が丹念に準備したエクスポージャー・プログラムに参加した。

5.　WCC 中央委員会議長報告・総幹事報告から

WCC 中央委員会のヴァルター・アルトマン（Walter Altmann）議長は開会演説の中で，教会が本来備えるべき諸要素はどれも互いに連関しており，どの要素が欠けてもその働きを担えないことを確認し，こう語った。「キリスト教教育への強調なしには，宣教はその焦点を見失い，福音の証しは歪められてしまう。ディアコニア（社会への関わり，奉仕）なしには，宣教もキリスト教教育も信頼性のない賭け事に堕してしまう。神学的洞察と教理的対話がなければ，キリスト教の宣べ伝えも，無秩序なものとなってしまう。そして，宣教とディアコニアがなければ，神学的洞察と教理をめぐる対話も，抽象的で人為的な作業となってしまうのである」。

---

(9)　「コンセンサス方式」は，少数者としての正教会側の意見，立場が，多数決方式では WCC の意思決定に反映されないとの正教会側の大きな不満に対する対案として 1998 年の WCC 第 8 回総会で提起され，2006 年第 9 回総会以降，基本的にすべての WCC 会議体で採択されることになった決議方式である。全代議員にオレンジとブルーのカードが配られ，提案される意見や議案に賛同する場合はオレンジのカードを，否定的な場合にはブルーのカードを掲げる。ブルーを掲げた議員には発言の機会が与えられ，最後まで同意できなかった場合には少数意見として記録される。全代議員がオレンジを掲げた時点で，議長は「コンセンサス成立」を宣言し，決議となる。また，オレンジとブルーの両方のカードを同時に掲げた場合には「議事進行要求」を意味する。いわゆる「多数決方式」とはあくまでもラテン教会の決議方式であり，東方正教会では，古代教会以来の「全会一致方式」を守ってきた，という主張を世界の教会が共有，ないし再回復した結果でもある。

オラフ・トヴェイト（Olav Fykse Tveit）WCC 総幹事は，総幹事報告において，WCC には，エキュメニカル運動を領導していく責任があることを再確認しつつ，WCC が働き，語りまた思考するその内容を，それぞれの地域的コンテキストの中で，より可見的に，より具体的に表示していく必要があることを強調した。

6. 「宣教」（Mission）をめぐって

この間，WCC が推進した，重要な動きは，「宣教と伝道」をめぐる領域であった。WCC 釜山総会のプレ的な位置づけも与えられた，「世界宣教伝道会議」（World Mission and Evangelism）が，2012 年 3 月に，フィリピン，マニラで開催された。会議の規模自体はそれまでの宣教伝道会議と比して大きなものではなかったが，WCC 世界宣教伝道委員会（CWME）の領導により，きわめて重要な宣教宣言である，『いのちに向かって共に－変化する世界情勢における宣教と伝道のあり方』（*Together Towards Life : Mission and Evangelism in Changing Landscapes*）が生み出された。今回の総会プレナリーで，この文書は満場の拍手でもって受領された。この宣教宣言において示された，「中心」と「周縁」をめぐるリフレクションは，今後のエキュメニカル運動全体に対するチャレンジとなるであろう。

1910 年のエジンバラ宣教会議以来，宣教をめぐる議論とエキュメニカル運動は，基本的にパラレルな歩みを続けてきた。これからのエキュメニカル運動は，今回の新たな WCC 宣教宣言が提示した通り，「中心」からではなく，「周縁」から教会と福音を現実的に語っていく，という方向性を基盤とすることになる。また，今回の総会は，「宣教と伝道」をめぐる理解と牽引において，WCC は依然として重要な役割を担っていることを，再認識させるものであった。私たちは，宣教をめぐる議論についての貴重な遺産を継承していると共に，伝統の豊かさ，日常的な宣教実践の豊かさを，示し続けてきたからである。

本総会における「宣教（Mission）についてのプレナリー」では，正教会のジヴァーゼ・コールリス（Metropolitan Geevarrghese Mor Coorlis）CWME 議長が，この宣教宣言の中核は，常に，力なき者のために，力ある者によってなされる宣教，貧しき者のために，富める者によってなされる宣教，グローバル・サウスのために，グローバル・ノースによってなされる宣教に対する挑戦にあると言明した。コールリス議長はさらにこう語った。「痛みや戦いという命を拒絶する日々の経験を通して，周縁に置かれた人々は，いのちの神を知っているのである。」「教会は，いのちの周縁において，三位一体なるいのちの神と出会うよ

う，召されているのである。」この宣言は，1982 年以降，初めてエキュメニカルに共有された宣教理解でもある。

7. 「一致」（Unity）をめぐって

WCC のもう一方の重要領域は，もちろん「信仰と職制」（Faith and Order）である。WCC 信仰職制委員会がまとめた，『教会 ― 共通のヴィジョンを目指して』（*The Church : Towards a Common Vision* : TCTCV）文書は，長年にもわたる WCC 信仰職制委員会の議論，研究の集大成であると言える。『教会－共通のヴィジョンを目指して』は，前回の中央委員会で正式に採択され，総会を経て，今後，各加盟教会はもちろん，ローマ・カトリック教会を含めて，広く用いられることが期待される。また 2015 年 12 月末までに，同文書への応答が求められている。これからのエキュメニカル運動が，さらなる「可見的一致」（visible unity）へと歩を進めるために，『教会 ― 共通のヴィジョンを目指して』は，根幹的なテキストとなるはずである。

また，マルティン・ルターらが始めた宗教改革 500 年をどのように記念するかもまた，WCC の重要な話題となった。この記念が，ただ単にそれを祝うものなのか，それとも，何かしらの悔い改めと変革を求めるべきものなのか，という議論もあった。アルトマン議長も，ルーテル世界連盟（LWF）と共に，この課題に深く関わっていることを強調し，私たちが，宗教改革 500 年を共に祝うべきは，まさに，「たゆまない改革と福音の発見」にあること，エキュメニカル運動と教会間対話の進展が，これが，私たちすべてにとっての貴重な宝であることを再認識させたと言っても過言でないこと，ルーテル教会のメンバーであるかないかに拘らず，この 500 年の諸教会の歩みを共に祝うことは大切であることを，指摘している。

一方で，500 年前の宗教改革を起点として，教会は，プロテスタント内部も含めて，無数に分裂してしまった，という事実から，私たちが目を逸らすことはできない。WCC が，単一のいわゆる “super-church” を目指しているのではないことは言うまでもない。しかしながら，私たちは，それぞれの教会の，伝統，考え方，地域性等々の多様性を互いに尊重し合いながら，その多様性における一致を求めるものである。ばらばらなままで良いというのではなく，いかに誠実な可見的な一致へと進むのかが問われているのである。

WCC 総会では必ず『一致を求める声明』（Unity Statement）を採択する。今総会の声明の中では，「教会の一致，人間共同体の一致，そして，すべての被造物の一致は互いに結

び合わされている」ことが述べられ，創造の多様性こそが神からの賜物であることが指摘されている。「一致（Unity）についてのプレナリー」では，長年，WCC の信仰職制部門を指導してきた，英国教会のメアリー・ターナー（Mary Tanner）ヨーロッパ地域議長が，私たちの一致とは，私たち自身が作り出すものではなく，三位一体なる神を通して溢れ出す愛における交わりにこそ基礎づけられるものであることを強調された。

8. 「正義」（Justice）と「平和」（Peace）をめぐって

WCC は，2011 年 5 月に，ジャマイカで開催された「国際エキュメニカル平和協議会」（International Ecumenical Peace Convocation : IEPC）を通して，「正義と平和」のための働きは，WCC の中核的なものであるだけではなく，イエス・キリストに従い，共に十字架を担うように召されたすべてのキリスト者にとっての本質であることを確認した。また，この会議で改めて認識されたのは，ローカルに，またグローバルに正義と平和を推し進めようとする，無数の人々，組織体のための「共通のプラットフォーム」の必要性であり，そのために WCC は努力を惜しまないという点である。

一方で，IEPC でのキーワードとなった，“Just Peace” をめぐってはさまざまな議論があることが，今総会でも紹介された。そもそも “Just Peace” という言葉の定義が定まっておらず, それゆえに, Justice と Peace の関係理解をめぐって議論が尽きないことがある。また，いわゆる “Just War”，正しい戦争，聖戦的な理解との関係で，その「正しさ」そのものを問う議論がある。帝国主義的戦争を展開した際に，戦争当事者たちはその戦争を，“Just Peace” のための “Just War” であると主張した。そのような血と手垢にまみれた用語は相応しくないという指摘が，今回の総会においてもなされた。

本総会の「正義（Justice）についてのプレナリー」でも，「HIV/AIDS 感染者と共に生きる宗教指導者国際ネットワーク」（INERELA+）事務局長であるヒュムジレ・マビゼラ（Phumzile Mabizela）さんは，教会にとって，正義をめぐる諸課題は，選択的なものではなく，使命そのものであると訴えた。

いくつかの重要なプレナリーの中でも，ことに，「平和（Peace）についてのプレナリー」は，素晴らしいものであった。南部アフリカ聖公会のタボ・マクゴバ（Thabo Makgoba）大主教の進行の下, 発言者は, リベリアの和平実現に女性たちの力を結集した, 2011 年ノーベル平和賞受賞者の，レイマ・ボウイ（Leymah Gbowee）さんと，私の青年時代からの旧友でもある，梨花女子大学教授の張允載（チャン・ユンジェ）先生であった。ボウイさん

は，暴力，苦悩，不正義に満ちた世界の只中にあって，平和を唱道することは神によって私たちに与えられた使命であることを強調し，2003 年に母国リベリアで内戦を終結させた際に，非暴力運動を掲げたキリスト者女性とイスラムの女性たちが果たした役割が非常に大きかったことを紹介した。張允載先生は，朝鮮半島の平和統一問題は終末論的問いでもあり，また，広島・長崎という地上で初めて核兵器が人間に対して用いられたこの北東アジアが，1961 年 WCC ニューデリー総会の時には一つも核を有していなかったのに，現在はどうであろうか，と強く訴えられた。

総会の事前企画として，韓国教会は，「韓国平和プロジェクト」（Korea Peace Project）という企画を実施したが，その目玉企画が，ベルリンを出発して，韓国までキャラバン形式で鉄路による平和の旅をするという「ピース・トレイン」（Peace Train）であった。残念ながら北朝鮮に入国することはできなかったが，WCC 総会にシンボリカルな意味を与えるものとなった。

9. 「公的諸課題」（Public Issues）をめぐって ― 採択されなかった核・原発 ―

WCC が本総会において決議する「公的諸課題」（Public Issues）は大変な重みのあるメッセージとして全世界に伝えられる。今総会については，すでに，執行委員会（Executive Committee）などを通して，4 つの「声明」（statement : ① 宗教の政治化，宗教的少数者の人権，② 国籍を失った人々の人権，③ 朝鮮半島の平和と和解，④ “Just Peace” への道）と 3 つの「覚え書き」（minute : ① 中東におけるキリスト者の存在と証し，② コンゴ民主共和国の状況，③ アルメニア人虐殺 100 年を覚えて）が提示されていた。これらに加えて 10 月 31 日 19 : 30 を締切りとして，追加の声明案が募集され，公的諸課題委員会（PIC）中間報告では，結果 22 案件が新たに提起され，その内，2 件がさらに追加声明案として報告された。

その一つが，韓国，台湾，日本の関係者が協働して提出した，あらゆる核兵器，原発などの核をこの地上からなくすことを訴える声明案，「非核世界（nuclear-free world）実現に向けて」であった。原発，核兵器などすべての核の廃絶を訴えるワークショップに参加した際に，その締め括りで，韓国の神学者である金容福先生が，「現在，公的諸課題（Public Issues）を扱っている委員会（PIC）で激しい議論が起こっており，ことに，聖公会の委員が，原発必要論を唱えて，核兵器廃絶はいいが，声明に原発を含めるのは認めない，という主張を繰り広げているので，声明が全体会議にかけられた際には，ぜひ積極的に発言し

て欲しい」と求めた。アングリカン関係者に確認したところ，英国教会チェスター教区のピーター・フォースター（Peter Forster）主教であることが分かった。

フォースター主教は，実は，英国議会の上院議員であり，議会では，環境問題・気候変動，科学技術の担当であった。英国議会でも，二酸化炭素排出を減らすのに有効な，再生可能エネルギーと原子力エネルギーの利用を進めるため，私企業に原発の使用済核燃料の処理の責任を負わせる現在の形では原発への新たな投資が見込めないので，国も責任を負う形にして投資を促すべきだといった主旨の発言をしていることも判明した。私は，日本聖公会が昨年の第 59（定期）総会で決議した声明，「原発のない世界を求めて ― 原子力発電に対する日本聖公会の立場 ―」などを，あらためてフォースター主教に紹介しながら，対話を試みたが，最終的に主教のスタンスを変えることはできなかった。

最終的に提案された公的諸課題（Public Issues）は，「声明」（Statement）7 件，「覚え書き」（Minute）4 件，決議（Resolution）1 件の合計 12 件であった。「声明」① 宗教の政治利用化と宗教的少数者の権利，② 国籍を失った人々の人権，③ 朝鮮半島の平和と統一，④ “just peace” への道，⑤ 中東におけるキリスト者の存在と証しの支持，⑥ 南スーダン・アベイ（Abeyi）における現在の深刻な状況，⑦ 非核世界（nuclear-free world）実現に向けて。「覚え書き」① コンゴ民主共和国の状況，② アルメニア人虐殺 100 周年，③ 先住民，④ 気候変動。「決議」米国-キューバ関係の改善と経済制裁解除への促し。

このように，脱原発・非核世界の実現の課題も議場に提出され，原案には，福島の人々への配慮も明文化され，文句のないレヴェルであったが，委員会提案前文には，このような但し書きが付されていた。「提出された声明案『非核世界（nuclear-free world）実現に向けて』は，公的諸課題委員会（PIC）内での合意に至らなかったことが特記されるべきである。」結局，委員会内では最後まで，原発維持派の同意を得ることができなかったのである。プレナリーでの審議の際には，まずなぜ PIC 内で合意に至らなかったのか，という問いから始まり，この声明案そのものを採択するかどうかの，激しい議論になることが予想されたので，私も，日本聖公会の代議員として発言を予定し，日本基督教団の代議員である伊藤瑞男先生が翌朝には所用で帰国されることもあって，別プログラム（GETI）スタッフとして，WCC 総会に参加されていた同志社大学の木谷佳楠先生に急遽，代議員を交代し，議場で日本基督教団として発言いただくことになった。 在日大韓基督教会代議員の許伯基先生も発言を準備されることになった。

最終的には，脱原発・非核世界の実現の声明案は，時間切れのため，反対論，賛成論各

1 名のみの発言が許され，反対論は，フォースター主教が反対論を論じた[10]。賛成論は，ドイツ福音主義教会（EKD）からの代議員であるウルリッヒ・マラー（Urlich Merler）牧師が指名され賛成論を述べた[11]。私も，教団の木谷先生も，マイクの前に立ったが，発言の機会を与えられなかった。声明案を総会で採択することに反対のブルーカードもかなりの数があったため，アルトマン議長の裁定で，本案を中央委員会に送り，審議を継続することになった[12]。本件を除いて他の 11 件はすべて総会で採択された。何よりも，十分な議論の時間と機会が与えられなかったのは遺憾であった。賛成論，反対論をかみ合わせながら，コンセンサスを得ることが WCC の生命線なのであるが，禍根が残る議会運営であった。

10.　WCC 第 10 総会期新体制－新中央委員会・中央委員会議長－

WCC 総会の重要な作業は，新しい総会期の中央委員会と中央委員会議長を選出（新中央委員会で）することにある。次期 WCC 中央委員を選出するための委員会（Nomination Committee）の第 1 回報告で，中央委員候補の中間報告リストが配布された。全中央委員 150 名中 110 名がリストアップされ，男性 65%・女性 35%，教職（聖職）72%・信徒 28%，青年 11%，障がい者 7%，先住民 7% の構成でいずれも要件を満たしておらず，これから追加される 40 名でこのアンバランスを調整することとなった。第 2 回報告で，中央委員

(10)　フォースター主教の反対意見は以下の通り（行本尚史氏訳）。「福島での災害を受けて，また原子力産業のさらなる調査や規制のためにも，私はこの地域における憂慮をよく理解している。しかしこの声明は 3 つの理由でバランスに欠けていると思う。ひとつ目は，それは 2 つの全く別な問題を関連付けているからだ。ひとつは科学や核兵器の乱用であり，もうひとつは原子力の潜在的な平和利用だ。これら 2 つの問題が共通の脅威をなしているとか，ここで使われている表現のように，実に表裏一体だというのは，行き過ぎだ。それは，核兵器に対する私たちの反対という，私たちを実に一致させているものから引き離してしまうという危険を冒すことになる。2 つ目に，私が思い出すのは，公的諸課題委員会がこの問題について支えとなる調査研究を受けていない。それはこういう類の声明を作る責任を負っているのに，調査研究を受けていないのだ。さらに，もし私たちが化石燃料による発電と原子力に反対するとしたら，私たちは発展途上国で貧困と闘うのに，どうやって明かりをともし続けるのか。ここには重大な問題があるのに，それは考え抜かれていない。私としてはそれを中央委員会に付託してくれるよう望む。」

(11)　マラー牧師の賛成意見は以下の通り（行本尚史氏訳）。「私たちは 2 つの点でたった今言われたことに反対しなければならないと私は思う。核武装の問題に対する倫理的で教会論的でさえある対処には，長い伝統がある。それが爆発した場合の力だけでなく，それによる脅しに対しても。これについては全会一致が築かれてきたのであり，今こそ行動すべき時だ。2 つ目に，いわゆる民生用の原子力利用については，今が危機の時であることを私たちは目の当たりにしてきたのであり，教会は声を上げなければならない。もし私たちが未来の世代を犠牲にしてエネルギーを生産するこの持続不可能なシステムを変えたいのであれば，私たちは今こそ始めなければならない。」

(12)　本声明案は，2014 年 7 月にジュネーブ・エキュメニカルセンターで開催された WCC 中央委員会において無事採択された。また，同じ中央委員会で採択された声明「日本国憲法第 9 条解釈改憲について」と共に，張裳 WCC アジア地域議長が本声明の 2 つを携えて，同年 8 月 4 日に来日，首相官邸を訪問し，菅義偉官房長官に直接手渡すことが実現した。

会第 2 案リストが配布され，追加された候補者を含めて，総 220 名の候補者から 150 名に絞ったリストが提示された。精一杯に委員会がバランスを配慮したことが伺えるものであったが，多数の修正要求が相次ぎ，決定には至らなかった。第 3 回（最終回）報告で，前回までのセッションで出された異論等をノミネーション委員会が再度検討し，最終案が提出された。

韓国教会が提出した委員候補交代案が 2 件あった。内 1 件は，マレーシアのメソジスト教会からの委員候補を，韓国メソジスト教会の委員に交代させるという案であった。韓国からは地域代表議長がすでに選ばれているが，前回案では，韓国からの中央委員は 1 名となっており（前期中央委員は 2 名，今回当初韓国からは 5 名枠を求めていた），何とか少なくとも前回と同じ 2 名に戻そうとしたのだと思われる。

しかし，実際，議事が開かれた際に，真っ先に，マレーシアの代議員からコンセンサスがない，認められないという抗議が出され，審議の結果（人事はコンセンサス方式ではなく，過半数），過半数以上が，当初案通りマレーシアの中央委員候補を残すことに賛成したために，韓国案は否決された。もう 1 件の韓国提案は，当初案が，韓国イエス教長老会の女性で青年信徒であったのを，同教会の教職，非青年の候補への交代というものであったために，異論が相次ぎ，会議は 1 時間の予定を越えて紛糾した。一度は，挙手による投票が行われ，当初の青年女性候補をそのまま残すことが決まったが，それに対してアルトマン議長が韓国教会に配慮した懸念を表明するなどして，最終的には，今は WCC 総会ではほとんど行われない，投票用紙を用いた投票が行われることになった[13]。結果，総数 529 票の内，青年女性候補を残すことに賛成したのが，139 票で結果，修正提案が通った。その他，中央委員席数の減少に異を唱えていた，米国合同メソジスト教会に配慮して，米国聖公会が委員候補を取り下げて，その枠を米国合同メソジスト教会に振り分けることも認められた。これは，米国でも進む教会間対話の大きな成果と言える。日本枠も 1 名承認され，私がもう 1 期，日本の教会を代表して（形式としては日本聖公会からであるが），WCC 中央委員を務めさせていただくことになった。任期は次回総会までの 8 年となる。

新たに選出された，WCC 第 10 総会期の第 1 回中央委員会が開催され，WCC 中央委員会議長・副議長（2 名），及び，執行委員会 23 名の選出が議論された。張裳氏をはじめ，やはり新しく選ばれた各地域議長が議事を司り，まずは，新中央委員の紹介があり，次に議長・執行委員会選出のための，選出委員会，25 名が指名された。この選出委員会で，

---

(13)　総会運営委員会（Business Committee）では，アルトマン議長の発言に対して誘導的，操作的であったとの批判が噴出した。

候補者案を検討し，最終日の総会後に開催される第 2 回中央委員会で，この候補者リストに基づいて選挙が行われることになった。執行委員会は，今回の総会で法規が改正されたため，次回総会までの半期，つまり 4 年で 1 期の任期が終わり，中間の中央委員会で 2 期目の執行委員会が選ばれることになった。また，トヴェイト総幹事は，執行委員会の約 25% である最低 4 名は青年であることを強く求めた。

中央委員会終了後，同じ東北アジアからの中央委員である，韓国からのベ・ヒュンジュ（Bae Hyun Ju）先生（女性のイエス教長老会牧師），台湾からのヤンエン･チェン（Yang-En Cheng）先生（台湾長老教会（PCT）），中国からのバオピン・カン（Baoping Kan）先生，マンホン・リン（Manhong Lin）先生（中国基督教協会（CCC））と挨拶を交わした。WCC 中央委員会で，ことに東北アジアの教会として，さまざまな諸課題を協働して取り組んでいかなければならないので，個人的な信頼関係をつくることも重要なことである。

中央委員会の際に, マレーシアからの中央委員候補が, 韓国の候補に交代されそうになった件の詳細を，マレーシアの中央委員であるキーシン・ウォン（Kee Sing Wong）先生から直接聞くことができた。当初，私は，同じメソジスト教会間で何らかの合意があり，しかし，マレーシアの他の教派の方々が知らず，抗議されたのかと想像していた。しかし，事実は，マレーシアの教会は一切事前の相談，協議等を韓国教会から受けておらず，会場で配布されたリストを見て初めてそのような案が出されていることを知り愕然とした，というのである。ウォン先生は，事前協議なし，ということにも怒りを覚えたが，何よりも，この修正案が通れば，WCC 中央委員会におけるマレーシアのプレゼンスが無くなってしまい，それは全マレーシアの諸教会にとって，まったく受け入れられないことである，と言われていたがその通りであろう。

総会閉会直後に開催された第 2 回新中央委員会で，WCC 中央委員会新議長に，ケニヤ聖公会の，アグネス・アブオム（Agnes Abuom）司祭が満場一致で選出された。彼女は前中央委員会でも個人的にも大変親しくしている方であるが，実に優秀かつ牧会的な司祭であり，WCC 中央委員会議長には相応しい方である。アブオム司祭は，WCC 史上初の女性でアフリカ出身の WCC 中央委員会議長である。

また，今総会では，次期総会期以降の WCC 運営に関わるいくつかの法規変更が承認された。中でも，WCC 総会間間隔をこれまでの 7 年を 8 年に，また中央委員会開催間隔を，現在の 15 か月から 2 年に変更するという件が可決されたことは大きな変更点である。

11.　韓国教会内の混乱－反 WCC 派の主張－

今回の WCC 総会は WCC 史上でも，ある意味特異な総会となったことは否めない。それは，韓国教界があげて WCC 総会を誘致したはずであったのが，蓋を開けてみれば，実に韓国全土のキリスト教会の凡そ 7 割が，WCC 総会に反対であった，という事実である。実際，WCC 総会場外では，大小規模の WCC 総会反対運動が展開され，身の危険を訴える参加者もいた。主要には，大韓イエス教長老会（合同派）[14] 等が中心になって組織されていたようであるが，その主張の主要な論点は，① WCC は他宗教との対話を標榜しているが，これはキリストの福音の証しを阻害するものである，② WCC は世界各地で共産主義勢力を支持している，③ WCC は同性愛を支持している，④ これらはすべて聖書の教えに反しているといったものであった。いずれもあまりにもプリミティヴな主張なので，総会参加者も，ほぼまともには相手にしておらず，風物と化していた。私も委員であった，総会運営委員会（Business Committee）でも，セキュリティ面での懸念と WCC は対応しなくても良いのか，という問いが出されたが，トヴェイト総幹事は，仮に反対派側が公式に WCC に対して対話を申し入れてきたならばそれなりの応答の可能性はあるが，それらは一切ない以上，この問題はあくまでも韓国教界内の問題であって，私たちはあくまでも，韓国教会からの招きに応えて WCC 総会をこの地で開催している，というスタンス以上でも以下でもない，と言明された。

総会閉会礼拝途中には，一人の反対派が乱入し，大声を上げながらスクリーンに石のようなものを投げつけて，取り押さえられるというアクシデントがあった。礼拝は中断し，緊張したが，その後は無事に礼拝を終えた。確かに強制的に乱入者を取り押さえて，排除したことにも動揺を覚えたが，前日に韓国現地委員長でもあった名声（ミョンソン）教会の金サムワン牧師に対して危害を加えるという予告めいたものがあったようで，多数の警備員が配置されていた，という状況もあった。一番気の毒であったのは，これまで一生懸命，運営に気を配ってきた WCC や現地ホスト委員会のスタッフたちであった。

---

[14]　WCC の釜山誘致を推進したのは，大韓イエス教長老会（統合派）である。そもそも，大韓イエス教長老会が 2 派に分裂したのは，1959 年に，WCC への加入をめぐって，韓景職牧師を中心とする加入賛成派（「統合派」，エキュメニカル派）と，朴亨龍牧師を中心とする加入反対派（「合同派」，福音派）が対立したことによる。そういう意味では，今回の混乱は歴史的経緯から考えても，必然的であったとも言える。

12.　おわりに ― 今後の WCC と私たちの課題 ―

1998 年にジンバブエ，ハラレで開催された WCC 第 8 回総会では，今後のエキュメニカル神学の基本的方法論となるのは，「エキュメニカル解釈学」（ecumenical hermeneutics）であると規定した。それぞれの教会が固有に大切にしている伝統，福音理解，職制等を，エキュメニカルなコンテキストの中で解釈することを通して，対話における共通理解を模索しようとするものである。この間，画期的進展を見せている教会間対話は，まさしくこの「エキュメニカル解釈学」の具体的応用であると言えよう。

ただ，一方で，実際，『教会－共通のヴィジョンを目指して』を取り扱った「エキュメニカル対話」の議論においても実感したことは，ことに信仰職制をめぐるエキュメニカル対話は，現在は WCC 信仰職制部門を中心とする枠組みよりも，個々の 2 教会間による「教会間対話」を基本とした動きに比重が移動している，ということである。これは，1980 年代までに，『リマ文書』を集約点として，エキュメニカル対話のプラットフォーム的基盤を提供する「エキュメニカル解釈学」という方法論が確立され，以降は，その「エキュメニカル解釈学」を方法論的スタンダードとして，より具体的な職制論的合意を目標とする，「教会間対話」が画期的に進展していったということと理解することができよう。その中で，今後 WCC という枠組みが果たすことのできる役割はいったい那辺にあるのかが，より問われてくることになろう。

WCC ハラレ総会以降は，一方で，正教会の参与をめぐって困難な議論もなされてきた。聖公会も含めたプロテスタント諸教会における近年の女性聖職実現の動き，さらには，同性愛者の聖職叙任，同性婚の祝福などをめぐる議論，共産圏崩壊後のロシア，東欧におけるファンダメンタルな福音派による強引な改宗主義的伝道などの諸要因が，従来から底流にはあった，諸正教会側の西側教会に対する不満を爆発させる結果となったのである。今回の WCC 総会においても，正教会との関係においては，やはり「エキュメニカル解釈学」という方法論が有効であると再確認された。「教会論と倫理」という課題を克服するために，それぞれの伝統や神学，そして文化の違いに十分に耳を傾け合いながら，その異質さと共に在ることによって，全体がさらに豊かにされるのだという確信がある。WCC などの出会いと経験を通して，社会正義，信仰職制といった領域で正教会内にも大きな自己変革が起きており，また逆にプロテスタント教会も，正教会のスピリチュアリティに触れることによって，測り知れない影響を受けている，ということである。今総会でもさまざまな場所で，神学的・宣教論的に「聖霊論」を基軸とした三位一体論が強調されたが，これらも

また正教会からの積極的影響として評価して良いであろう。

当初から，今回の WCC 第 10 総会は，ローマ・カトリック教会，福音派，ペンテコステ派，ニュー・チャーチ諸教会等々も含めた，WCC に正式加盟していない諸教会も参加できるようなより広い場とするという大きな目標があったが，一方で，1998 年の WCC 第 8 回総会で提起された，新たなエキュメニカルな出会いの場を創出しようとする「エキュメニカル･フォーラム」構想は，2007 年 11 月にケニヤ･リムールで出発した「グローバル･クリスチャン・フォーラム」（Global Christian Forum : GCF）として実現し，予想以上の成功を収めた。GCF は，新たなエキュメニカル運動の枠組みであり，教派，教団の正式加盟，決議機関ではなく，純粋にこの地上のあらゆるキリスト者が共に祈り，対話し，また世界各地の諸課題，取り組みについての物語に耳を傾け合う「場」を目指すものである。

当初，GCF は，組織的機構ではないがゆえに，その有効性について大きな懸念があったことは事実である。しかしながら，GCF・リムール第 1 回大会の内容が非常に充実したものとなったことに加えて，リムール大会期間中に世界の主要キリスト教会の総幹事クラスによる協議会が開かれたこともあり，大会には各教会の責任者がほぼすべて顔を揃えることになった。結果的に，GCF 大会はきわめて公式的な性格をも持つことになったのである。一方で，WCC が生みの親であるにも拘わらず，GCF の中では，皮肉なことに WCC はあくまでも一参加団体でしかなかった。今回の WCC 第 10 回総会においても，今後，WCC と GCF の役割分担をどのようにするのか，ということは焦眉の課題であることが論じられた。また，今回の第 10 回総会でも，ローザンヌ運動のマイケル・オー代表執行委員のメッセージに注目が集まったが，WCC が今後，グローバルな福音派との関係をどのように構築していくかも重要な課題である。

2005 年にアテネで開催された第 13 回 WCC 世界宣教会議の中で，サミュエル・コビア（Samuel Kobia）WCC 前総幹事は，① キリスト教の重心は，もはや北半球にはなく，南半球に移行しており，これまでの宣教論は再考されるべきである，② ヨーロッパ文化から発したキリスト教信仰の表白形態はもはや世界教会の規範とはならず，ヨーロッパ世界のキリスト教の退潮は，旧来のキリスト教世界こそが，伝道地に他ならないことを意味している，③ 世界中でペンテコステ派とカリスマ派が急成長している状況に注目すべきであり，こうした胎動，運動とどのような連帯が可能かを模索する必要がある，ことを指摘した[15]。この指摘は，今回の WCC 第 10 回総会の一方での基調をなしていたとも言える。今

---

[15] このコビアの指摘は，当時，ことに欧米の諸教会からの過度な反発というリアクションを引き起こし，コビアの任期前の早期退任に繋がったという説もある。

後のエキュメニカル運動の大きな主題ともなるはずである。

その他，今総会が積み残した重要な課題に，今後，WCC をはじめとする世界のエキュメニカル運動は，「脱原発・非核世界の実現」の課題をどう扱うのか，ということがある。前述した通り，今総会は，「脱原発・非核世界の実現」の公的諸課題声明を結局採択することができず，次回，WCC 中央委員会付託とした。＜いのち＞を中軸的主題とした今回の総会で，原発の問題についてフル・コンセンサスが得られなかった，という事実はある意味，衝撃的でさえある。反対論の主要点でもあった二酸化炭素削減，気候温暖化問題とのバランスを問う議論が，世界のキリスト教界などに根強くあることを認識した上で，日本基督教団，日本聖公会，在日大韓基督教界など，WCC 加盟教会をはじめ，ほぼすべての教会が明確な脱原発の方向性を宣言している日本のキリスト教界から，福島の経験，物語を踏まえた，より強力なメッセージを世界に向けて発信していくことが求められる。それは，日本の教会としての宣教的責務であり，また，世界に対する大きな貢献ともなるはずである。

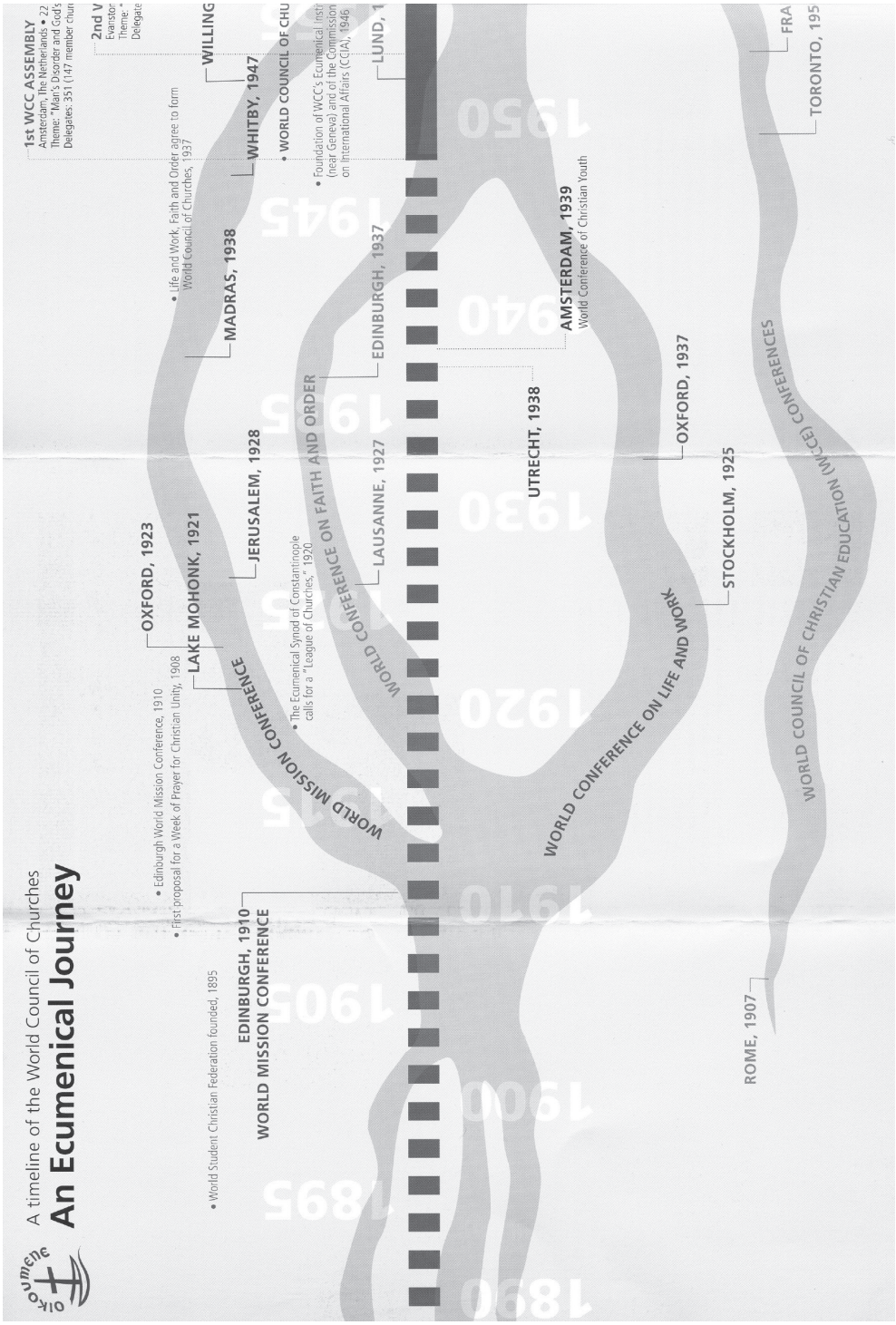
今総会中，ロシア正教会代表が，プレナリーにおいて挨拶をする機会があり，その中で，同性愛行動は聖書に相容れない等の発言があった。通常「挨拶」に対しては，会場はただ拍手でのみ応答するところであるが，複数の代議員がマイクの前に立って，疑義を呈した。アングリカン･コミュニオンをはじめ，各教派共が苦悩するヒューマン･セクシュアリティの諸課題については，事実上，WCC でもタブー化されており，ほとんど論じられることはない。しかしながら，今後，世界のエキュメニカル運動が，教会論と倫理の関係を議論していく上でも，この問題に取り組むことは不可避であり，どのような枠組み，方法論で，問題を整理，提示していくのかが課題となろう。

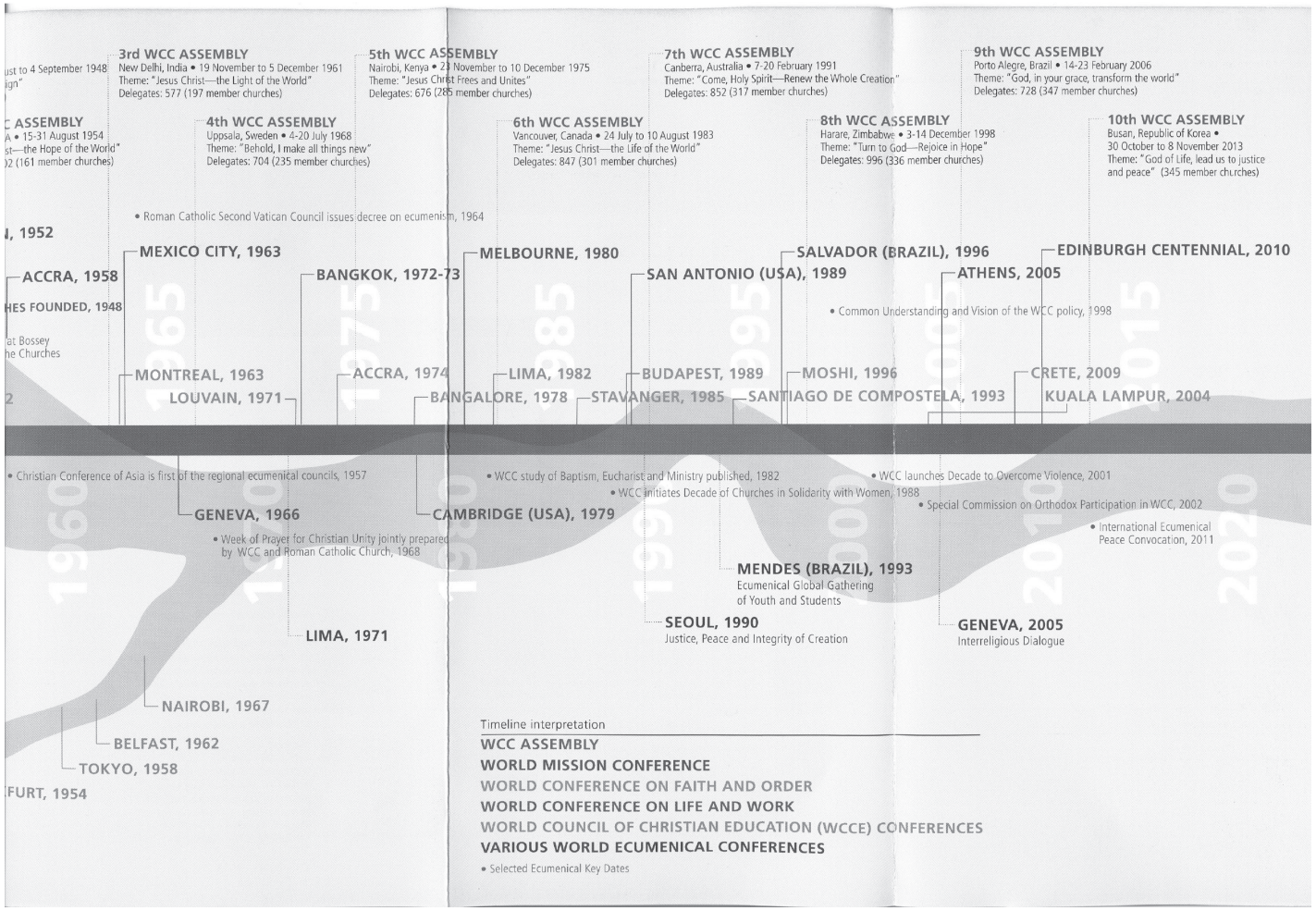
次回，WCC 第 11 回総会は 2021 年に開催されることになっている。開催地は，今後の中央委員会で決められる。次回総会までに，そもそもの WCC の存在理由，存在意義が，ますます問われることになる。また，日本におけるエキュメニカル運動の弱体化が甚だしい中ではあるが，この 8 年間の間に，日本の教界，日本のエキュメニカル運動が世界に貢献しうることは何か，逆に，世界のエキュメニカル運動から，日本の教会が得られるものは何か，について誠実な議論を開始させていかなければならないのである。

ASSEMBLY AGENDA
Assembly timetable

World Council of Churches, 10th Assembly, Busan, Republic of Korea
"God of life, lead us to justice and peace"

Draft	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday	Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
11/07/13	30 October	31 October	1 November	2 November	3 November	4 November	5 November	6 November	7 November	8 November
08 : 30 09 : 00	Registration and Orientation	Prayer	Prayer	Prayer	Ecumenical Pilgrimage for Peace with Korean Churches	Prayer	Prayer	Prayer	Prayer	Prayer
09 : 15 10 : 15		Bible Study	Bible Study	Ecumenical Pilgrimage for Peace with Korean Churches		Bible Study	Bible Study	Bible Study	Bible Study	Committee Reportas
10 : 15	Break	Break	Break			Break	Break	Break	Break	Break
10 : 45 12 : 15	Gathering Prayer	Theme Plenary	Asia Plenary			Mission Plenary	Unity Plenary	Justice Plenary	Peace Plenary	Closing Plenary or Reports
12 : 15	Lunch	Lunch (Committees)	Lunch (Committees)			Lunch (Committees)	Lunch (Committees)	Lunch (Committees)	Lunch (Committees)	Lunch
14 : 15 15 : 45	Opening Plenary	Business Plenary	Business Plenary			Madang Programme (Workshops)	Madang Programme (Workshops)	Madang Programme (Workshops)	Madang Programme (Workshops)	Sending Prayer
15 : 45	Break	Break	Break			Break	Break	Break	Break	Break
16 : 15 17 : 45	General Secretary and Moderator Reports	Ecumenical Conversations	Ecumenical Conversations	(Committees)	(Committees)	Ecumenical Conversations	Ecumenical Conversations	Committee Reports	Committee Reports	*WCC Central Committee*
17 : 45	Break	Break	Break			Break	Break	Break	Break	
18 : 15 19 : 45	Business Plenary	Regional Meetings	Confessional Meeting	(Committees)	(Committees)	Elections	Committee Reports	Committee Reports	Confessional Meetings	
20 : 00 20 : 30	Prayer	Prayer	Prayer			Prayer	Prayer	Prayer with Korean Churches	Prayer	X
20 : 30	Dinner	Dinner	Dinner			Dinner	Dinner		Dinner	X


oikoumene
A timeline of the World Council of Churches
An Ecumenical Journey
• World Student Christian Federation founded, 1895
• Edinburgh World Mission Conference, 1910
• First proposal for a Week of Prayer for Christian Unity, 1908
EDINBURGH, 1910
WORLD MISSION CONFERENCE
OXFORD, 1923
LAKE MOHONK, 1921
JERUSALEM, 1928
WORLD MISSION CONFERENCE
• The Ecumenical Synod of Constantinople calls for a "League of Churches," 1920
LAUSANNE, 1927
WORLD CONFERENCE ON FAITH AND ORDER
• Life and Work, Faith and Order agree to form World Council of Churches, 1937
MADRAS, 1938
EDINBURGH, 1937
UTRECHT, 1938
AMSTERDAM, 1939
World Conference of Christian Youth
WORLD CONFERENCE ON LIFE AND WORK
OXFORD, 1937
STOCKHOLM, 1925
WHITBY, 1947
WILLING
1st WCC ASSEMBLY
Amsterdam, The Netherlands • 22
Theme: "Man's Disorder and God's
Delegates: 351 (147 member chur
2nd W
Evanston
Theme: "
Delegate
• WORLD COUNCIL OF CHU
• Foundation of WCC's Ecumenical Inst
(near Geneva) and of the Commission
on International Affairs (CCIA), 1946
LUND, 1
ROME, 1907
WORLD COUNCIL OF CHRISTIAN EDUCATION (WCCE) CONFERENCES
TORONTO, 195
FRA
1895
1900
1905
1910
1915
1920
1925
1930
1935
1940
1945
1950


ust to 4 September 1948
ign"
3rd WCC ASSEMBLY
New Delhi, India • 19 November to 5 December 1961
Theme: "Jesus Christ—the Light of the World"
Delegates: 577 (197 member churches)
5th WCC ASSEMBLY
Nairobi, Kenya • 23 November to 10 December 1975
Theme: "Jesus Christ Frees and Unites"
Delegates: 676 (285 member churches)
7th WCC ASSEMBLY
Canberra, Australia • 7-20 February 1991
Theme: "Come, Holy Spirit—Renew the Whole Creation"
Delegates: 852 (317 member churches)
9th WCC ASSEMBLY
Porto Alegre, Brazil • 14-23 February 2006
Theme: "God, in your grace, transform the world"
Delegates: 728 (347 member churches)
C ASSEMBLY
A • 15-31 August 1954
st—the Hope of the World"
)2 (161 member churches)
4th WCC ASSEMBLY
Uppsala, Sweden • 4-20 July 1968
Theme: "Behold, I make all things new"
Delegates: 704 (235 member churches)
6th WCC ASSEMBLY
Vancouver, Canada • 24 July to 10 August 1983
Theme: "Jesus Christ—the Life of the World"
Delegates: 847 (301 member churches)
8th WCC ASSEMBLY
Harare, Zimbabwe • 3-14 December 1998
Theme: "Turn to God—Rejoice in Hope"
Delegates: 996 (336 member churches)
10th WCC ASSEMBLY
Busan, Republic of Korea •
30 October to 8 November 2013
Theme: "God of Life, lead us to justice and peace" (345 member churches)
• Roman Catholic Second Vatican Council issues decree on ecumenism, 1964
I, 1952
ACCRA, 1958
HES FOUNDED, 1948
at Bossey
he Churches
MEXICO CITY, 1963
BANGKOK, 1972-73
MELBOURNE, 1980
SAN ANTONIO (USA), 1989
SALVADOR (BRAZIL), 1996
ATHENS, 2005
EDINBURGH CENTENNIAL, 2010
• Common Understanding and Vision of the WCC policy, 1998
MONTREAL, 1963
LOUVAIN, 1971
ACCRA, 1974
LIMA, 1982
BANGALORE, 1978
STAVANGER, 1985
BUDAPEST, 1989
SANTIAGO DE COMPOSTELA, 1993
MOSHI, 1996
CRETE, 2009
KUALA LAMPUR, 2004
2
1960
1965
1970
1975
1980
1985
1990
1995
2000
2005
2010
2015
2020
• Christian Conference of Asia is first of the regional ecumenical councils, 1957
• WCC study of Baptism, Eucharist and Ministry published, 1982
• WCC initiates Decade of Churches in Solidarity with Women, 1988
• WCC launches Decade to Overcome Violence, 2001
• Special Commission on Orthodox Participation in WCC, 2002
• International Ecumenical Peace Convocation, 2011
GENEVA, 1966
CAMBRIDGE (USA), 1979
• Week of Prayer for Christian Unity jointly prepared by WCC and Roman Catholic Church, 1968
MENDES (BRAZIL), 1993
Ecumenical Global Gathering of Youth and Students
SEOUL, 1990
Justice, Peace and Integrity of Creation
GENEVA, 2005
Interreligious Dialogue
LIMA, 1971
NAIROBI, 1967
BELFAST, 1962
TOKYO, 1958
FURT, 1954
Timeline interpretation
WCC ASSEMBLY
WORLD MISSION CONFERENCE
WORLD CONFERENCE ON FAITH AND ORDER
WORLD CONFERENCE ON LIFE AND WORK
WORLD COUNCIL OF CHRISTIAN EDUCATION (WCCE) CONFERENCES
VARIOUS WORLD ECUMENICAL CONFERENCES
• Selected Ecumenical Key Dates